



Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外48号です。患者さん（ご家族）を対象に実施したアンケート結果と、きづがわねっとネットワーク会議の報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

アンケート結果について

～ 今後の励みに ～



ニーズを聞き取り、今後のよりよい病棟運営に活かすことを目的として、これまでに当院の地域包括ケア病棟“彩り”を定期的にご利用頂いている患者さん・ご家族を対象に、令和元年度の下半期、アンケートを実施しました。主介護者の休養のため、月1回定期的にご利用されている方、ご家族が仕事で不在になる際にご利用されている方、と利用頻度や入院期間は様々です。

ご家族から「定期的に利用することでリフレッシュでき、在宅療養を続けられる目標になる」「入院後、微熱が出たり痰が多くなったりなどの症状が出ましたが、迅速な対応で回復も早く、予定通り退院することができました」「(病棟で集団体操や車いす移乗を行っているものの)退院後は全身拘縮が強くなり元に戻るのに時間がかかります。セラピストによるリハビリをお願いしたい」などのご意見を頂戴しました。

リハビリについては、リハビリ科セラピストと病棟看護師が協力し、可能な限り離床して頂けるように取り組んでいるところですが、その患者さんの入院前の生活様式を意識し、リハビリを実施していきたいと考えています。

今後も、地域に寄り添った病棟でありたいと考えていますので、どのような些細なことでも結構ですので、ご要望やご意見などがありましたらお寄せ頂ければ幸いです。今後ともよろしくお願ひします。（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）

地域包括ケア病棟“彩り”のQRコードを作成しました。

～ お気軽にお使い下さい ～

地域包括ケア病棟“彩り”のQR（Quick Response）コードを作成しました。スマホなどのカメラで読み込んで頂きましたら、当院のホームページ内の地域包括ケア病棟“彩り”広報誌Designのバックナンバーがご覧いただけます。



きづがわねっとネットワーク会議

～ 新しい形へ ～



奇数月の第2月曜日は、「きづがわねっと」ネットワーク会議が開催される日です。本来であれば、午後8時30分から、相楽医師会事務所で開催されるのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、他の会議や研修会などと同様、3月の「きづがわねっと」ネットワーク会議も中止となっていました。

先日、きづがわねっと事務局の田邊ケアマネジャー(つかさ社会福祉士事務所)から、この「きづがわねっと」ネットワーク会議を30分程度、試験的にウェブで開催する旨の案内が届きました。アプリをダウンロードして、スマホやタブレットでも参加できるとのことでしたので、当日(5月11日(月)午後8時～)、私はスマホで参加しました。

当日は、柳澤衛先生(柳沢活道ヶ丘診療所)、田邊ケアマネジャー、村上ケアマネジャー、平島ケアマネジャー(京都府介護支援専門員会相楽ブロック)、吉岡ケアマネジャー(木津川市地域包括支援センター木津東)、柏本介護士(京都府介護福祉士会会長)、松山薬剤師(マツヤマ薬局)、金沢企画調整室長(京都府山城南保健所)、北管理栄養士(相楽栄養士研究会)が参加し、それぞれから近況報告をしました。ケアマネジャーや地域包括支援センターからは、担当している利用者さんにアベノマスクを届けていることや、国からの給付金10万円の手続きがご自身でできない方の支援をしなければならないとの報告があり、皆さん頑張っておられることに刺激を受けました。最後に、柳澤先生から、「(それぞれが慣れることを目的に)定期的にウェブ会議を開催してはどうか」と提案があり、ウェブ会議は終了となりました。

新たな形の「きづがわねっと」ネットワーク会議に参加し、久しぶりに皆さんと顔を合せられたことを嬉しく思います。引き続き、地域の皆さんとの連携に役立てていければと思っています。

(地域医療連携室 室長 南出 弦)

地域医療連携室より

～ ゆっくり先のことを考える時間に ～

地域包括ケア病棟には、在宅復帰率70%以上(6ヶ月の平均)という国で定められた要件があります。現在、当院の地域包括ケア病棟“彩り”の在宅復帰率は約80%となっており、多くの患者さんはご自宅や、在宅復帰の対象となる特養や有料老人ホームなどに退院されますが、老健へ入所待ちの患者さんや療養型病院への転院を待機している患者さんの受け入れもさせて頂いています。「家に帰らないから、受け入れできません」ということはありませんのでご安心ください。

「家で介護したいけど、もう限界です」と言われるご家族とこれまで沢山、接してきました。中には(施設に入所させることに)後ろめたさを感じられるご家族もおられます。そのようなご家族には、地域包括ケア病棟“彩り”にご本人が入院されている間に、ゆっくり先々のことを考えて頂ければと思っています。担当ソーシャルワーカーが、今後の選択肢などについてご相談に乗らせて頂きます。(地域医療連携室 室長 南出 弦)